

(別紙様式3)

令和4年度あいちラーニング推進事業研究報告書

学校番号 036

学校名 愛知県立日進高等学校

校長氏名 鈴木 達也

研究責任者職・氏名	教諭 ・ 早川 武宏	事務担当者職・氏名	主事 ・ 松本 翼
研究 テーマ	ICTを積極的に活用した「主体的・対話的な学び」に繋がる授業づくり		
本年度の 研究目標	(1) ICT機器を効果的に活用した「主体的・対話的で深い学び」を実践するための授業研究を進める。 (2) 一人1台タブレットを有効活用し、生徒が主体的に学習に取り組むことができる授業運営方法の研究を進める。 (3) 生徒が実践する探究的な学習活動を適切に評価していくための評価方法を構築する。		
研 究 の 実 施 内 容			
実施月日	内 容	備 考 (対象生徒等)	
令和4年 5月24日	教科主任会にて研究計画の概要説明	教科主任	
令和4年 6月 6日 ～ 6月17日	授業参観旬間を利用したICT活用推進期間①(研究発表)	全校生徒、全職員	
令和4年 7月27日 ～ 11月25日	尾東地区第1回連絡協議会参加 授業参観旬間を利用したICT活用推進期間②(研究発表)	担当者 全校生徒、全職員	
令和4年 11月17日			
令和4年 11月18日	研究報告会(公開授業)	全校生徒、全職員	
令和4年 11月22日	春日井南高校公開授業及び研究協議会参加	校長、担当者	
令和4年 12月 6日	教科主任会にて中間報告	教科主任	
令和5年 1月 5日	講演会参加	担当者	
令和5年 1月20日	尾東地区第2回連絡協議会参加	担当者	
令和5年 2月28日	講演会参加	担当者	
令和5年 3月上旬	教科主任会にて最終報告、振り返り及び次年度の目標を協議 県へ報告書提出。HPにて取り組み内容の公開開始	教科主任 担当者	

研究成果の評価及び普及・還元に関する実績

(1) ICT機器を効果的に活用した「主体的・対話的で深い学び」を実践するための授業研究について

ア 公開授業及びICT活用研究報告会

公開授業に併せ、多くの教科でICTを活用した実践を行うことにより、その活用方法や効果について幅広い意見を得て今後の効果的な活用方法について研究を進めていくことを目的として研究報告会を以下の日程で実施した。

(ア) 実施日

令和4年11月17日(木)

(イ) 実施科目

教科	科目	実施クラス	取組内容
国語	基礎国語	1年1組	ロイロノートを活用した漢字学習
	国語総合	2年3組	プロジェクターを利用した古文読解
	古典A	3年2組	タブレットを用いた読解のまとめ
地理歴史	日本史B	2年1組 国際コミュニケーション コース	PowerPointのスライドを活用した学習
	地理A	3年3組	Teamsを活用したPowerPointスライド作成
数学	基礎数学	1年4組	プロジェクターでPowerPointを投影した授業
情報	デジタルコミュニケーション2	3年5組	タブレットを活用した学習
理科	科学と人間生活	1年2組	ロイロノートを活用した調べ学習
	物理	2年1組 人間環境 コース	ロイロノートを活用した力学的エネルギーの学習
保健体育	体育	2年2組男子 2年4組男子	プロジェクターで動画を投影した振り返り学習
英語	ヒューマンコミュニケーション	3年1組 国際コミュニケーション コース	PowerPointを利用したプレゼンテーション

(ウ) 実践内容

保健体育の授業では、生徒の様々な動きを事前に撮影し、プロジェクターを用いてその映像を観察することで自身の動きについての分析や改善点を得るためのICT活用授業を実践した。日頃見ることができない自身の動きを確認してワークシートに書き出していくことで、技術の向上に向けた新たな発見に繋げることができた。また、試合の映像を通して自身の動きをいかに調整していくかの分析をし、チーム内で改善点を話し合っって次戦に繋げていくことで、主体的・対話的な学びに結びついていると考える。

○ワークシート

ハンドボール 分析ワークシート(思考・判断)

■ シュートの映像を見て、自分自身の動きを分析してみよう。技術の向上に向けて改善できる点をあげてみよう。

✓ 考察ポイント

- ステップはしっかりできているだろうか
- ジャンプのタイミングと高さはどうだろうか
- シュートを狙った位置はどうだろうか

■ 自分自身のゲームでの動きを見て、良かった点や改善できると感じた点を書き出そう。

✓ 考察ポイント

- 自分の動きをどのように工夫していけばチームに貢献できるだろうか
- チームがより良くなるために必要な練習は何だろうか。

_____年 組 番 氏名

○授業風景



イ 中堅教諭資質向上研修研究授業

ICT活用推進期間において、中堅教諭資質向上研修の一環で美術Iの研究授業を実施した。書画カメラを利用して教員の動きを見ながら実習についての説明をしていく授業形態で、視覚的な情報を得ながら説明を受けることによって、生徒の理解度も増し、学習進度や学習意欲の向上にも繋がった。

○授業風景



- (2) 一人1台タブレットを有効活用し、生徒が主体的に学習に取り組むことができる授業運営方法の研究について

○授業風景

3年生の国際コミュニケーションコースで実施している学校設定科目のヒューマンコミュニケーションの授業では、「衣・食・住」のテーマを設定して海外の文化についてタブレットを用いて調べ学習を行い、PowerPointを利用した発表を行った。生徒一人ひとりが主体性を持って海外の文化について調べ、その内容を他の生徒と共有する機会は有意義であった。



- (3) 生徒が実践する探究的な学習活動を適切に評価していくための評価方法の構築に向けて

I C Tを活用した授業を積極的に実践しつつある中で、生徒の学習活動の適切な評価方法がより一層求められる。今後は、生徒自身が評価する自己評価や他者評価をどのように評価に繋げていくかなど、次年度に向けた研究課題を設定していきたい。

- (4) 成果と課題

本研究の目標達成に向け、全職員がI C Tを効果的に活用した授業づくりについての情報を積極的に共有し、「主体的・対話的で深い学び」の実践に向けた基礎を積み上げることができた。I C Tを活用した授業の具体的なイメージについては職員間で共通認識を得ることができたが、今後はI C Tを活用した授業内容がどの場面で効果的であるかを精査しながら、「主体的・対話的で深い学び」に繋がる効果的な活用実践の研究を進めていく必要があると感じる。

※ 本研究報告書は、令和5年3月23日までに県教育委員会に提出する。